

自然界の旬



春を演出する里山の植物

山裾にはビロードイチゴ

山道を歩くとヒサカキの匂いが



「わが園に 梅の花散る ひさかたの 天より雪の流

サクラとは違った趣のあるウメ（左）や、鈴なりの花を付ける毒樹であるアセビ（右上）、可憐な花を付けたビロードイチゴ（右下）などが春を彩る

れ来るかも」 大伴旅人

この歌は天平二年（七三〇）正月十三日、大宰師 大伴旅人卿の邸宅に集まって宴会をしていて、庭の梅の花を詠んで楽しもうではないかという事になって、三十二人が一首ずつ詠んだ中の一首です。

新暦の二月七日頃とされていますので、梅の開花時期としては、一三七九年後の今日と変わらないように思います。今ならカラオケでも歌おうではないかということになるのでしょうか、自然とのふれあいが希薄になったことが嘆かれます。

七塚高原の梅の花は、約一月おくれで咲きました。今の里山を飾っているのはアセビの花です。二丁三丁のこんもりしたアセビの木を覆つくすように真っ白い花をつけています。

コナラの樹間に、遠くからでも目につくコブシが派手な花をつけ始めました。山裾にはビロードイチゴが白い花をズラッと縦長に咲かせています。近くにクロモジも小さい黄色の花を咲かせています。

春の小川は、さらさら行くよ。岸のすみれや、れんげの花に： 誰もが必ずと言っているほど小学校で習う「春の小川」の歌詞にも出てくるれんげ。水が張られる前の春の田んぼ



一面を紅紫色に染めるその姿は、のどかな田園風景の最たるものだと言えるでしょう。ところが、植物図鑑にはゲンゲ（紫雲英）という名で掲載されていることは意外と知られていないのではないのでしょうか。

うか。逆にレンゲとしてしまふと蓮華・蓮花という漢字を当て、蓮の花を示すようです。さて、ではなぜゲンゲはあれほどまでに田んぼに一面に咲いているのでしょうか。実はあれは意図的に栽培されている

強大な窒素固定能力 作って役立つ、観ても楽しめる

これをゲンゲ畑と呼びます。田植えの前に耕し、ゲンゲをそのまますきこんで肥料として使います。植物の良好な生育に欠かせないのが窒素ですが、その窒素を固定する根粒菌の働きで、ゲンゲの根には球形



マメ科だけあって、一つ一つの根はマメにそっくり（上）。畑一面に広がり紅紫色の絨毯のよう（左）

の根粒が付くのです。ゲンゲの窒素固定力は強大で、十センチの生育、おおよそ十センチ、あるいは半分の飼料とすると、八、九月頃、稲刈り前の田んぼの水を抜いて種を蒔き、翌春に花を咲かせていました。

膨大であることは容易に想像できます。また、乳牛を飼っているところでは、飼料として使います。昭和未頃までは「春の風物詩」でもあったのですが、今は全国各地で減少してしまっています。

化学肥料は安価で扱いやすいので圧倒的なシェアを占めていることは当然でしょうけれども、残されたゲンゲ畑を観て楽しむ、心の豊かさも見直してみたいかがでしょうか。

（環境保全課 原竜也）

山裾の側溝には、ヤマアカガエルのおたまじゃくしがひしめき合っています。あの軽やかな、「クワクワア」という声が聞かれたのは二月十二日でした。昨年より半月早かったです。親ガエルたちは山に帰って春眠を楽しんでいることでしょうか。いつの世代でも変わらない自然の演出者たちです。

未来をつくる学生のエコと心

地域活動を展開する中で、もっと若い力を呼び込めないかと考えたことはないだろうか。学生も自らの成長と未来を考え、活躍の場を探している。このシリーズでは、環境分野で積極的に活動する学生グループを紹介し、地域と学生のコミュニティ形成のきっかけを提供する。

シリーズ9回目は、これまでの取材をふり振り返り、学生がどのような活動を行い、何を目標しているのか、そのためには何が必要なのかを考えます。

これまでに取材したサークル・団体 第1回目は、ネットワーク組織である「U E-ne t」について取材しました。

コミュニケーションの広がりがためになる

社会を見据え地球の未来を考える

学「環境サークルがんぼ」、尾道大学「ゴミ部」、広島市立大学「ねっこ広島」、広島国際大学「エコのコエ」、広島女学院大学「ガーデニング部」、国立広島商船高等専門学校「チーム岐美研究室」、広島大学「エコ・ページ」という順に学生の活動を紹介してきました。

これまでに取材してきたサークル・団体に共通して言えることは、サークル内・学内だけで終わってしまう活動ではなく、地域コミュニティや社会へ積極的に活動を働きかけ、研究や、意識啓発などの目的の達成に向けた実践活動を続けていることです。それぞれのサークル・団体は、生活環境が

これまでの取材を振り返って

ら課題を見つけ、解決に向け工夫に富んださまざまな活動を提案・展開し、地域コミュニティ・NPO・行政など多くの方々たちと連携し、試行錯誤を繰り返しながら課題の攻略に努めていました。

学生の活動から見てきたもの 取材を通して伝わってきたのは、誰かがやってくれるという考えでは何も進まないという問題意識と、活動を通して触れ合う地域の方や他団体の方とコミュニケーションの広がりが楽しい、ためになるという活動の意気込みや勢いです。

活動の方法や形態はそれぞれに特徴を持った異なるものですが、これから自分たちが暮らしていく社会を見据え、何かできないか、やれることがあるのではないかと知恵を出し合い、協力して、これからの地球の未来を考えていることが共通していました。

これからも、広島県内で活動を展開する学生の取り組みを紹介し、地域と学生のコミュニティ形成のきっかけを提供していきます。

（地域支援課 馬場田真一）

個人情報保護方針（プライバシーポリシー）

当会は、お客様の個人情報を適切に保護することが、個人情報取扱事業者としての責務であると認識し、個人情報の取扱方針を以下のとおり定め、個人情報の保護に努めます。

- 1. 個人情報の収集について
2. 個人情報の目的と利用について
3. 個人情報保護対策について
4. 個人情報に関する法令及びその他の規範の遵守について
5. 個人情報保護への取り組みの継続的改善について

財団法人 広島県環境保健協会 理事長 近光 章